

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100942		
法人名	有限会社ひかりの里		
事業所名	グループホームひかりの里		
所在地	〒038-2411 青森県西津軽郡深浦町風合瀬字大磯195番地16		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設やグループホームに入所すると温泉に出かける機会がなくなります。その人らしく過ごしていただく為にも、障害があったとしても、昔行っていた温泉に出かけ、地域の人達と触れ合う機会を沢山取り入れていきたいと思っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所からは海や山が一望でき景色も良く、事業所内もとても明るく居心地良く過ごしやすい環境である。なるべく天気の良い日は外出する機会を増やし、地元の温泉や地域の祭り等に参加し、地域の人々とのふれあいを大切にしている。また、利用者に対する言葉掛けや対応を大事にされており、和やかで穏やかな雰囲気過ごされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの際、理念を理解し目標を述べ取り組んでいます。	理念を玄関に掲示している。朝の申し送りの際には理念を唱和し今日一日の目標を掲げ、全職員で理念を共有している。地域のつながりを大切に、安心して暮らせるという、地域密着型サービスの意義をふまえた理念となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩し、声をかけたりかけられたり、慰問に来ていただいたりして交流しています。	春から秋までなるべく外出する機会を設け、月1回は地元の温泉に行って交流を図っている。また、保育園や小学校の行事や慰問、近隣の散歩等を通じて地域との交流をととても大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の支援の方法や日頃行っていることで何か役に立つことがあればと講話会を開いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換時に気づきや問題点を話し合うことにより、次のステップサービス向上に活かしています。	運営推進会議は地域包括ケアセンター職員、自治会長、民生委員、家族、入居者、職員が参加し2ヶ月に1回開催している。会議では報告や問題点等を話し合い、報告書にまとめている。出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括ケアセンターの会議に参加し、運営や現場の実情を伝えサービスの課題、解決に向けて協議し、市町村と共にサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	毎月、地域包括ケアセンターの会議に参加し、相談や情報交換等を行う他に、いつでも連絡しあえる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できるだけ身体拘束をしないという方向で考え、日々のケアの中に工夫や声掛けを取り入れてサービスを提供しています。やむを得ず身体拘束を行う場合は拘束理由や実施期間等を記録し、家族の同意を得たりするなど体制を整えています。	日々のケアに工夫や声掛け等を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合は家族の同意を得て、記録を整備する等の体制は出来ている。	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を正しく職員が理解できるように、身体拘束についてのマニュアルを作成し勉強することに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は社内研修で虐待防止法等について学び、管理者は職員に対して虐待についてのあり方や対応について指導し共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は社内研修で権利擁護に関することを勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者や家族等に理念やケアの方針について説明し、納得してもらった上で契約を結んでいます。訪問の際、不安や疑問等について尋ね、十分な説明を行い納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情受け入れ箱を設け面会の際、意見や要望を話していただき、その際には、その都度口頭で対応し、申し送りノートに記載し、職員全員で周知の徹底をし、日々のケアに反映させていく取り組みをしています。	苦情・意見箱を設けている他に、面会時に意見や要望がないか聞いている。そこで出された意見や要望はその都度話し合い、日々のケアに取り入れ改善している。また、事業所内には外部にも意見が出せるように案内が掲示されており、面会時に話されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営方法や利用者情報は、毎日の申し送り時に口頭で伝え、申し送りノートにも記入し伝えていきます。月に一度の全体会議でも話し合う機会を設け反映させていきます。	月1回の全体会議や毎日の申し送りを通じて、意見や提案を聞く機会を設けている。そこで話し合われたことを申し送りノートで職員に伝え、日々のケアに取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、良い点は褒め、出来ないことに対してはアドバイスを与え、それぞれが仲良く働けるような環境。向上心を持って働けるような職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の質の確保、向上にむけた育成の必要性を認識し、場面場面においての声掛けや方針を作っています。又、研修に参加出来る機会を作り、働きながら学び向上していくことに力を入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケアセンター主催の会議に参加し交流を持っています。他施設にも訪問し、サービスの質を向上させていく取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを多く持ち心から安心して話してもらえるような関係作りに心がけています。相手を受け入れ、不安や要望に傾聴することを重要視しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安に思っていること、要望などに耳を傾け力になり、支えてあげるなどし、信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者の希望やニーズに対し、どのようなサービスが必要か話し合い、必要な支援を見極め利用者と家族に選択していただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には得意分野(野菜作り、裁縫、掃除、配膳、食器拭き等)で力を発揮していただきます。又、介護員が知らないことなどを知らせていただいたり、と家族的な関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族の元に広報やお手紙で利用者の近況を伝え、訪問時には家族の悩みや希望を聞き、利用者を共に支える関係作りをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じて馴染みの美容院や親戚の家に出かける。近場の温泉、風合瀬いか焼き村、保育園、又小学校や中学校の運動会への参加など、馴染んできた人や場所への支援を継続しています。	地元の温泉や近隣に外出したり、友人や近所の人が遊びにきたりと、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋で寝ていようとする人がいますが、皆で過ごすことの大切さを学び、共に生きていく喜びを、体験を通し知っていただき、関わり、支えあっていくことができるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談や支援に応じ、経過のフォローに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしの希望が本人の意向に添うよう努めています。迷った時は利用者の視点に立ち、思いを感じ取っての意向に努めています。	本人や家族に希望や意向を聞き、本人本位のケアに努めている。困難な場合には、本人の視点に立ち本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者を良く知っている家族や親類、友人から情報の収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、一回の過ごし方、心身の状態、暮らしのあり方、どのように力を発揮出来ているかの把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしていけるようケアのあり方について、本人、家族、職員、関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させ、本人に合った計画作成を行っています。	ケアのあり方について、面会や電話で家族に聞く等して、皆で話し合っって介護計画を作成している。遠方の家族には介護計画書を郵送し同意を得ている。3ヶ月に1回モニタリングを行う他に、状態変化時にはその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や様子を介護日誌に記録し、実践結果、気づきや工夫を取り入れ、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて利用者や家族等、地域からのニーズに応えるよう自主サービスを開発しています。例えばホームへの見学送迎や一日体験サービスなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力で避難訓練や救急救命等の講習を行っています。ボランティアに慰問に来ていただき、歌や踊り等を披露していただきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの係りつけ医に定期的に受診をし、体調の変化が見られた時は必要に応じて受診できるよう支援しています。	入居時にかかりつけ医を確認しているが、緊急時の対応や入院、距離等を考慮して、近くの病院へ受診することに了解を得ている。しかし、本人や家族の希望があればいつでも受診できる体制はある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域包括ケアセンターの看護職員、又は受診時の看護職員に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近くの医療機関と連携を取っており、病院関係者との情報交換や相談出来る関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応について出来ること出来ないことを家族と話し合い、医療機関と情報交換をし、利用者や家族の意向を尊重しながら地域の関係者と共に支援に取り組んでいます。	入居の際に重度化や終末期の対応について、事業所で出来ることや出来ないことを重要事項説明書で説明し同意を得ている。重度化した場合にはその都度早い段階で話し合い、方針を共有し必要に応じて他の事業所への紹介等をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含めた緊急対応マニュアルを作成し、全職員が応急手当や救急救命の研修を毎年受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て昼夜を想定した避難訓練を実施し、AEDの使用方法や救急救命の講習会を毎年定期的に行い、地域の方にも協力を求めた体制を築いています。	AEDの講習や救急救命の講習を消防署の協力の下、全職員が毎年受けている。1年に1回は町で行われる地震の合同避難訓練に参加したり、消防署立会いの下で火災を想定した避難訓練も行っている。備蓄も用意している。地域の消防団や地域の協力も呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮して言葉掛けをコミュニケーション技術を取り入れながら行っています。	コミュニケーション技術を取り入れながら、言葉遣いやプライバシーに配慮した対応を重視しており、その場面にそぐわない対応や言葉掛けが見られた場合には、その都度管理者から指導を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関わりの中で希望や関心、自己決定を促す場面を積極的に作っています。十分に意思表示出来ない人に対しては、本人の思いを感じ取り出来るだけ満足の得られる支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に考え、その人らしい生活が送れるよう希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重し、買い物に出かけた際に化粧品や好きな食べ物、衣類などを買っています。又一人で出来ない人には介護者側が支援し、おしゃれの楽しさを知ってもらうようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の山菜などメニューに取り入れ、カロリー、栄養面を考慮しながら行っています。下ごしらえや後片付けも一緒に行い、職員も利用者と一緒に食事を取り、楽しい雰囲気です。	畑でとれた野菜や季節の山菜などをメニューに取り入れている。栄養面では地域包括ケアセンターの栄養士に相談したり、カロリー計算しながらメニューを作成している。利用者と料理の下ごしらえや後片付けを一緒に行ったり、食事を一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の総摂取カロリーを概ね1300～1400kcalとして作っています。水分の摂取量を一日1000～1500cc摂るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の手入れの必要性を全職員が理解し、毎食後に口腔内の洗浄や入れ歯の手入れを行うよう声掛けや一緒に行うなど、一人ひとりの能力に応じた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し把握しています。個々の状態に合わせて事前誘導を促し、失禁時の対応は利用者の尊厳保持に配慮し行っています。	個々の排泄パターンを把握し、時間を見てトイレ誘導し、なるべくトイレで排泄できるように支援している。失禁時には利用者の尊厳を傷つけないように声掛けや対応に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材やメニューの工夫を取り入れながらも一日の食事や水分量、排泄活動状況を見直し、自然排便を促す工夫を行っています。それでも出ない人に対しては医師の指示の元に配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴が楽しめるよう、その人によっては入浴日にカレンダーに温泉マークを記入するなど工夫を取り入れ楽しんでもらえるようにしています。	週3回入浴できるような体制ではあるが、入居者の体調や希望、タイミングにあわせて個々に応じた入浴の支援を行っている。また、月1回は地元の温泉に行く支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その人にあつた活動量や休息を取り入れ、気持ち良く眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬の内容を記入した用紙を計画作成に綴じたもので把握しています。変化や異変があつた場合には申し送りノートに記入し、全職員が共有し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴の中で本人が楽しいと思える役割や場を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿つた対応に心がけています。天気の良い日はできるだけ外に出かけられるよう支援しています。	なるべく天気の良い日は散歩をしたり、地域の祭りや近隣に外出する機会を設け、外出を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は個々の状態を把握しており、個々にあった金銭管理が行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に電話や手紙でのやり取りを行っています。自ら出来ない人に対しては介護者側が本人に代わって代弁しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周りは自然に囲まれ、心地よい日の光、台所からは朝食のにおい、それぞれが自然にダイニングに集まり、テレビを見たり、話したりとゆったり過ごす時間が多いです。	共有スペースにはソファが置かれ、窓から見える景色や光が心地良い。また、季節毎の飾りつけを行っており、季節感が感じられゆったりとくつろげる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に広めのソファコーナーが設けられ、全員又は仲間同士で団欒できるスペースがあります。又、一人がけの椅子も設けています。一人で過ごしたい時は自室でゆっくり休み、又皆のいるところに来るという日々を送っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由となっており、使い慣れた鏡、布団、食器類の生活用品が持ち込まれ、馴染みのある安心できる居室となっています。	入居時に使い慣れたものを自由に持ち込みでき、馴染みのある居室になるように工夫され、利用者にとって安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を考慮し、手すりの設置、転倒につながる原因の回避、生活場面での環境改善の工夫をしています。		